

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす。		
関 連 科 目	専門基礎科目（臨床科目）：発達心理学、臨床心理学 専門基礎科目（地域科目）：カウンセリング 専門科目：小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、母性看護学総論、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、地域看護学概論、地域看護学Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20％）を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	心理学の歴史と方法	心理学の領域、心理学史
2	脳と心理学	脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害
3	心の発達	発達の諸側面、子どもの発達、生涯発達心理学、発達障害
4	感覚と知覚	感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚
5	学習	レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ
6	記憶と思考	記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル
7	動機づけと情動	動機づけと欲求、感情・情動、表出行動とコミュニケーション
8	性格	類型論、特性論、性格検査の信頼性と妥当性
9	対人関係と集団	対人認知、対人感情、関係の維持
10	臨床心理学Ⅰ	精神分析（フロイト）、分析心理学（ユング）
11	臨床心理学Ⅱ 心理療法の技法	コラージュ療法の体験
12	臨床心理学Ⅲ 心理臨床に必要な精神医学の知識	精神障害の分類、精神障害の治療
13	臨床心理学Ⅳ カウンセリング	来談者中心療法（ロジャース）
14	臨床心理学Ⅴ 心理臨床の実践領域	教育領域の実践、福祉領域の実践、医療・保健領域の実践、司法・矯正・警察領域の実践、産業領域の実践
15	まとめ	これまでの広義の総括

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山 祐嗣、山口 素子、小林 知博編著（北大路書房）
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	森 川 功
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 15 コマ	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート（複数回提出）の成績（100%）および講義中の質疑応答（レポートの総合成績に加点）。 但し、場合によっては、試験を実施することもあり得る。		
準 備 学 習 の 内 容	各回の講義時間において詳細を紹介できない事柄（倫理綱領や種々の事件など）について、指示に基づき文献等を調べて理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理とは 何故にいま生命倫理学を学ぶのか 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事
2	倫理理論	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理
3	基本倫理原則（1）	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 恩恵の原則 互惠の確保 恩恵を与える義務に対する制約 パターナリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善
4	基本倫理原則（2）	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リヴィング・ウィル カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性

回	講義題目	講義内容
5	基本倫理原則 (3)	公正の原則 資源配分 資源の稀少性 恩恵 (利益) と害悪 (負担) の配分 公正の概念 公正な配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論
6	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法を選択する段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報と推薦された医学的処置の「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 医学的処置の実施を支持する決定における「患者の自由意思」 選択した医学的処置の実行に関する「患者による授権」
7	生命の神聖さ (SOL) と生の質 (QOL)	人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOL の概念 QOL の概念 SOL 対 QOL
8 ～ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	個別的な論題については履修者が希望するものを採りあげる。特に希望がない場合には、 1) 植物状態患者と死の定義 2) 安楽死 3) 生殖補助医療 4) 出生前検査・診断 5) 新生児医療 などの論題を取りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	意図的な教育は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の現場においても教育的配慮が必要である。教員や親として、また医療従事者として必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	人の成長・発達と教育の関係を考察することや、公教育の成立の過程や現状の問題点などについて理解することを通して、教育の本質（概念・思想・理論）に迫り、対象である学習者（生徒、我が子、患者）の実態に即した望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。		
関 連 科 目	心理学・教育心理学・教育情報学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（60%）・随時実施するミニ論文などを通しての授業への参加度（40%）		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容について、シラバスや各回終了時の「次時の予告」に基づき、自分の経験などから問題意識をもっておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ヒトとは何か	ヒトの特性
2	発達	発達と学習（個の欲求）
3	教育	学習と教育（社会の要請）
4	教育内容	「覚える」と「わかる」
5		学力とは何か
6	教育方法	「教える」と「育てる」
7		学習意欲・動機付け
8	心の教育	道徳的心情の教育
9		宗教教育・人権尊重の教育
10	教育制度	近代以前
11		学校教育と教育改革
12	学校不適應	いじめ・不登校
13		
14	特別支援教育	心身の障害
15		発達障害

教 科 書	使用しない
参 考 書	

授 業 科 目 名	教 育 情 報 論	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と実習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	情報の収集方法とその諸問題への対処法、倫理的問題への対応などを指導する		
学 習 到 達 目 標	本講義の内容を全員が一定のレベルまで理解し、実践できること		
関 連 科 目	情報処理		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題 15%、発表 15%、平常点 30%、試験 40%で総合して成績を付ける。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	情報とは何か	情報の意味と歴史
2	情報の教育とは何か	情報の教育の意義と歴史
3	情報収集の実習①	情報収集の方法と留意点①
4	情報収集の実習②	情報収集の方法と留意点②
5	情報収集の実習③	情報収集の方法と留意点③
6	情報収集の実習④	情報収集の方法と留意点④
7	情報収集の実習⑤	情報収集の方法と留意点⑤
8	情報収集の実習⑥	情報収集の方法と留意点⑥
9	情報収集の実習⑦	情報収集の方法と留意点⑦
10	情報に関する諸問題への対処①	情報処理の倫理的問題と対処法①
11	情報に関する諸問題への対処②	情報処理の倫理的問題と対処法②
12	情報に関する諸問題への対処③	情報処理の倫理的問題と対処法③
13	情報に関する諸問題への対処④	情報処理の倫理的問題と対処法④
14	情報に関する諸問題への対処⑤	情報処理の倫理的問題と対処法⑤
15	まとめ	全体の総括

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	教 育 心 理 学	単 位 認 定 者	原 芳 典
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人と人との関わる教育的出来事（事象）を体験的に振り返り、心理学的に解明・理解する		
学 習 到 達 目 標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する		
関 連 科 目	教育学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（50%）および演習への参加（意見・感想）やレポートなどの平常点（50%）		
準 備 学 習 の 内 容	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらぬが自分の教育体験をよく想起しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	教育心理学を学ぶ意義	ガイダンス 自らの教育体験を振り返る エクササイズ
2	高校生の心理と発達	様々な発達理論 認知の発達 仲間関係 エクササイズ
3	中学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
4	小学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
5	幼児の心理と発達と家庭教育	認知の発達 家族関係 エクササイズ
6	青年期の心理と課題①	青年期の発達課題 ジェンダー・アイデンティティ エクササイズ
7	青年期の心理と課題②	進路とキャリアカウンセリング エクササイズ
8	教育の実践的諸問題	いじめ 不登校 摂食障害 エクササイズ
9	自己理解	自己と他者 自己評価 自己効力感 エクササイズ
10	性格	類型論と特性論 性格検査 エクササイズ
11	特別支援①	「障害」の定義の変遷 特性とニーズ エクササイズ
12	特別支援②	高機能広汎性発達障害 アスペルガー LD ADHD エクササイズ
13	学校臨床心理学	生活の場としての学校 潜在的カリキュラム 同僚性 エクササイズ
14	保健室	養護教諭と健康相談 アセスメント エクササイズ
15	まとめ	

教 科 書	小山望編「教育心理学～＜エクササイズ＞で学ぶ発達と学習」建帛社 2002年
参 考 書	保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義（映像資料を適宜使用）	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	誕生、病気、医療、死、霊魂をキーワードに、医療文化を民俗学的視点から学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	現代医療を考えるための民俗学的アプローチの方法に親しみ、日常生活における疑問解決の方法を学ぶことができる。		
関 連 科 目	生命倫理、家族学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（70%）と平常点（30%）で評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を事前に読み、必要に応じて下調べをする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	(1) いのちの人生儀礼 (2) 身体と霊魂の民俗 (3) 看取りと死の民俗	①オリエンテーション（学習の進め方） ②生死のこと／徒然草にみる生死 ③丙午俗信と出産行動（医療と俗信の関係） ④いのち観と人生儀礼（〔生命〕と「いのち」） ⑤盲目の旅芸人「瞽女」（映像鑑賞） ⑥名前と人生（いのちの名付け） ⑦現代の名前（名付けの基本を考える） ⑧霊魂と箸の伝承（昔話・身近な言い伝え） ⑨夜の民俗（妖怪魔物・眠らない夜） ⑩長寿の民俗（長寿銭習俗・高齢社会の問題） ⑪病気の民俗（大安退院問題） ⑫病人搬送 ⑬看取りと臨終（終末期医療） ⑭死の儀礼（死者儀礼の学習） ⑮死の判定とタマヨビ（医療化以前の伝統文化）

教 科 書	板橋春夫著『叢書いのちの民俗学3生死』（社会評論社）
参 考 書	

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	高 橋 珠 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	参考書の内容を中心に講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持・増進の方法について考えていく。		
学 習 到 達 目 標	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。		
関 連 科 目	健康スポーツ実技、運動生理学、運動学、スポーツ医学、障害者スポーツ・レクリエーション論等		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	① 平常点 (50%) ②ミニレポート (20%) ③期末試験もしくは最終レポート (30%)		
準 備 学 習 の 内 容	平常点、ミニレポートの提出が重要。また毎回ノートを取り、講義に関する自分の考えをまとめること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体育、運動、スポーツについて
2	体力について	体力とは何か
3	生命科学の基礎	生命科学の基礎
4	身体の仕組みと運動①	身体の仕組みと運動①
5	身体の仕組みと運動②	身体の仕組みと運動②
6	運動と生活習慣病	生活習慣病と関連する要因
7	身体の発育・発達と運動	子どもの時期の運動
8	学生生活と健康	健康を維持・増進するための運動
9	老化、寿命と運動①	老化に伴う身体機能の変化
10	老化、寿命と運動②	老化と運動
11	障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツ、アダプテッドスポーツについて
12	食事と健康	運動と栄養、体重コントロールについて
13	精神の健康	運動と心理の関わり
14	環境と健康	運動と水分補給、熱中症
15	まとめ	まとめ

教 科 書	特に指定はありません。
参 考 書	「スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ」池上晴夫著 朝倉書店 「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 「健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一 監修 杏林書院 等

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	高 橋 珠 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	<p>学生がその本来持っているエネルギーを正しい方向に向かわせるために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1人1役で責任の所在をハッキリとさせる。 2. 個々の活動目標を設定する。 3. 何度も繰り返しやらせ切り、反復連打（リピート）で責任感を持たせる。 4. 成功体験を持たせる（満足感・充実感）。 5. 組織性と方向性をもたせ「社会性」を育てる。 	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	<p>各種のスポーツ実践と理論学習を通じて、基本的技能の習得と戦術理解を深めるとともに、身体を動かす楽しさ・チームワークの重要性を体感することを目的とする。加えて、初年次教育プログラムの目的とするより豊かで協同的な人間関係と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。</p>		
学 習 到 達 目 標	<p>目標とする学生らしさを醸成するために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶と敬語の励行 2. 時間を守る 3. 忘れ物をしない 4. 身だしなみ（清潔な服装、頭髪） 5. 問題点を見つけ解決方法を探る 6. 自主的な清掃活動、奉仕活動をする 7. 感謝の気持ちを持つ 8. 人をいたわる心を持つ 		
関 連 科 目	健康スポーツ理論 運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点(30%)、態度(30%)、意欲(30%)、理解度(10%)の総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）		
準 備 学 習 の 内 容	健康管理と道具や心の準備		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体育授業の中で、学生らしさの醸成と生きる力を高める取り組みのポイントを伝える。
2	実技 1-1	バスケットボール（場の認識とシュート練習、全体サーキット）
3	実技 1-2	バスケットボール（シュート練習、速攻練習、全体サーキット）
4	実技 1-3	バスケットボール（全体サーキット、速攻練習とプレゲームと試合分析）
5	実技 1-4	バスケットボール（班別サーキット、練習試合と試合分析）
6	実技 1-5	バスケットボール（班別公式大会）
7	実技 2-1	フットサル（場の認識とシュート練習、全体サーキット）
8	実技 2-2	フットサル（シュート練習、速攻練習、全体サーキット）
9	実技 2-3	フットサル（全体サーキット、速攻練習とプレゲームと試合分析）
10	実技 2-4	フットサル（班別サーキット、練習試合と試合分析）
11	実技 2-5	フットサル（班別公式大会）
12	実技 3-1	ソフトボール（キャッチボール、ノック、トスバッティング、全体サーキット）
13	実技 3-2	ソフトボール（キャッチボール、全体サーキット、プレゲームと試合分析）
14	実技 3-3	ソフトボール（班別サーキット、練習試合と試合分析）
15	実技 3-4	ソフトボール（班別公式大会）

教 科 書	使用せず
参 考 書	使用せず

授 業 科 目 名	英 語 I	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フィ ス ・ ア ワ ー	木曜：昼休み（杉田研究室）
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力をつける。		
学 習 到 達 目 標	読解力とリスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語Ⅱ 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	前期末試験（90%）医療英単語テストの平均点（10%） 全回出席が大前提。		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の passage を読んでくること。 Conversation: 医療・看護英単語、英語表現を覚えること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の説明、自己紹介
2	(Reading) Unit 1 (Conversation) Unit 1	Source of Happiness 急に話しかけられた時の応対
3	(Reading) Unit 1 (Conversation) Unit 1	Source of Happiness 急に話しかけられた時の応対
4	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 2	This Is Not In 自己紹介の英語表現
5	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 2	This Is Not In 自己紹介の英語表現
6	(Reading) Unit 3 (Conversation) Unit 3	Plants as a Source of Health 丁寧な質問の仕方、数字の読み方
7	(Reading) Unit 3 (Conversation) Unit 3	Plants as a Source of Health 丁寧な質問の仕方、数字の読み方
8	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 4	The Path to a Healthy Lifestyle 初診の患者さんへの対応
9	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 4	The Path to a Healthy Lifestyle 初診の患者さんへの対応
10	(Reading) Unit 5 (Conversation) Unit 5	Keep the Brain Young 病院内の道順の尋ね方と答え方
11	(Reading) Unit 5 (Conversation) Unit 5	Keep the Brain Young 病院内の道順の尋ね方と答え方
12	(Reading) Unit 6 (Conversation) Unit 6	Friendship Is Good for Older People 症状の尋ね方 1
13	(Reading) Unit 6 (Conversation) Unit 6	Friendship Is Good for Older People 症状の尋ね方 1
14	(Reading) Unit 7 (Conversation) Unit 7	Love Yourself 症状の尋ね方 2
15	(Reading) Unit 7 (Conversation) Unit 7	Love Yourself 症状の尋ね方 2

教 科 書	園城寺康子他著 Think Positive—Healthy Living in Today's World—（『今日の社会と健康』）、南雲堂、2010年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞典、英英辞典

授 業 科 目 名	英 語 II	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み（杉田研究室）
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。 専門用語語彙力の発展。		
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。 専門用語語彙力の発展。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 I 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	後期末試験（90%）医療英単語テストの平均点(10%) 全回出席が大前提。		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の passage を読んでくること。 Conversation: 医療・看護英単語、英語表現を覚えること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 8	Emotional Intelligence: The Key to Success 病歴の尋ね方
2	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 8	Emotional Intelligence: The Key to Success 病歴の尋ね方
3	(Reading) Unit 9 (Conversation) Unit 9	Another Threat of Infectious Disease 薬の服用の説明
4	(Reading) Unit 9 (Conversation) Unit 9	Another Threat of Infectious Disease 薬の服用の説明
5	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 10	The Power of the Story 予約の取り方
6	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 10	The Power of the Story 予約の取り方
7	(Reading) Unit 11 (Conversation) Unit 11	The Value of Touch 手術に関する表現
8	(Reading) Unit 11 (Conversation) Unit 11	The Value of Touch 手術に関する表現
9	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 12	What will you do for the Earth? 入院患者さんによくする質問
10	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 12	What will you do for the Earth? 入院患者さんによくする質問
11	(Reading) Unit 13 (Conversation)	We All Have Two Hands 障害に関する表現
12	(Reading) Unit 13 (Conversation)	We All Have Two Hands Skit 作成
13	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) 劇を作る	エッセイを読む Skit 作成
14	(Reading) 様々な英語を読む (Conversation) 劇を作る	エッセイを読む Skit 作成
15	劇を演じる	Skit 発表会

教 科 書	園城寺康子他著 Think Positive—Healthy Living in Today's World—（『今日の社会と健康』、南雲堂、2010年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞典、英英辞典

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リスニング、対話訓練、語法説明、表現の暗唱などを行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	看護師として職場で外国人に英語で対応する、また海外の病院で英語を使って臨床研修をするなどの機会に備えて、英語でコミュニケーションをする力をつける。		
学 習 到 達 目 標	英語のⅠとⅡで看護の英語を学習したが、英語表現ではその学習を発展させ、看護現場における実用的な英語コミュニケーション能力を養成する。		
関 連 科 目	英語基礎、英語Ⅰ、英語Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業参加・小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	復習に重点をおき、前時になった表現を反復学習しておく。予習は Activities に出てくる新出単語を調べておく程度でよい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の進め方、学習の仕方
2	Unit 1: Activities 1-5	困った時の英語／診療科名／患者の基本情報
3	Unit 2: Activities 1-5	診療手続き／症状
4	Unit 3: Activities 1-5	入院時オリエンテーション
5	Unit 4: Activities 1-5	病歴の聴取／病名
6	Activities	Part 1-6 の Activities 6 または Short Speech
7	Unit 5: Activities 1-5	検査
8	Unit 6: Activities 1-5	産婦人科
9	Unit 7: Activities 1-5	小児科／予防接種
10	Activities	Part 5-7 の Activities 6 または Short Speech
11	Unit 8: Activities 1-5	手術
12	Unit9: Activities 1-5	術後／日常看護
13	Unit 10: Activities 1-5	心のケア／文化や宗教の違い
14	Activities	Part 8-10 の Activities 6 または Short Speech
15	Review	まとめ

教 科 書	書名：「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」 著者：知念クリスティーン、迫 和子 出版社：医学書院 定価：2200 円＋税
参 考 書	看護英語辞典、英和辞典

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成したい。		
学 習 到 達 目 標	日常生活及び看護の仕事の中で、簡単な会話ができるように進めたい。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末に筆記試験を行う。平常点と受講時の学習態度を参考の上、成績を評価する。 基準は筆記試験 70%、授業の平常点 30%。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストの CD を参考にしながら、繰り返し練習して欲しい。新しい単語を暗記し、書く練習と読む練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発音の基本	ガイダンス、母音、四声
2	発音の練習	母音、子音、四声
3	発音の練習	音節表による読む練習
4	第1課の学習	挨拶「こんにちは」、語彙と文法
5	第2課の学習	会話「あなたは中国人ですか」、語彙と文法
6	第3課の学習	会話「健康保険証を持っていますか」、語彙と文法
7	第4課の学習	会話「家族はどんな人がいますか」、語彙と文法
8	第5課の学習	会話「あそこで少しお待ちください」、語彙と文法
9	第6課の学習	会話「少し話せます」、語彙と文法
10	第7課の学習	会話「検査室に行って検査をしてください」、語彙と文法
11	第8課の学習	会話「どうしましたか」、語彙と文法
12	第9課の学習	会話「口を開けてください」、語彙と文法
13	第10課の学習	会話「この薬を飲んだことがありますか」、語彙と文法
14	第11課の学習	会話「服をあそこに置いてください」、語彙と文法
15	第12課の学習	会話「病状はずっとよくなりました」、語彙と文法

教 科 書	医療系学生のための初級中国語 白帝社 山田真一著
参 考 書	

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。		
学 習 到 達 目 標	1. ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 2. 正確な発音をマスターする。 3. 挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回 (30%) ・ 期末テスト (70%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の復習をよくすること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3 4	第一課 第二課 第三課 第四課	<p>コリア語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また映画などの鑑賞を通じて、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングルの読み方 (1) 基本母音と基本子音 ・ハングルの読み方 (2) 激音と濃音 ・ハングルの読み方 (3) 合成母音とパッチム ・挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	第五課 第六課 第七課 第八課 第九課 第十課 第十一課 第十二課 第十三課 第十四課 まとめ	<p><文法と会話></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は青木です」 ・「何人家族ですか」 ・「すみません」 ・「どうぞ召し上がってください」 ・「見たいです」 ・「いくらですか①」 ・「いくらですか②」 ・「もしもし」 ・「駅まで行ってください」 ・「ちょっとお尋ねしますが」 ・まとめ

教 科 書	講師作成教材使用 (コピー)
参 考 書	携帯版 「韓国語とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC 刊)

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる 		
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学 【この科目が基盤となる専門科目】 看護の学び入門、看護学概論、母性看護学総論、地域看護学概論 在宅看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	家族をとらえる（1）	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生産機能 消費機能 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り 家族の一体感を高める 取り組み “夫婦別姓”とはどういう問題か 家庭経済内部の4つの活動とその循環 生活とお金 ワーキングプア 生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活 家族と生活習慣②喫煙、③飲酒 ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮 家庭責任をもつ人の仕事への支援 看護職としての成長と私生活の運営・充実 まとめ
2	家族をとらえる（2）	
3	家族の機能（1）	
4	家族の機能（2）	
5	家族のつながり（1）	
6	家族のつながり（2）	
7	家族をめぐる制度	
8	家庭経済（1）	
9	家庭経済（2）	
10	生活習慣（1）	
11	生活習慣（2）	
12	ワーク・ライフ・バランス(1)	
13	ワーク・ライフ・バランス(2)	
14	ワーク・ライフ・バランス(3)	
15	まとめ	

教 科 書	使用しない（随時プリントや資料を配布）
参 考 書	山田昌弘「迷走する家族—戦後家族モデルの形成と解体」2005

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する
13	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	「30時間でマスター Excel2010」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	法 学 (日 本 国 憲 法 含 む)	単 位 認 定 者	齋 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。		
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。		
関 連 科 目	経済学、ジェンダー論、家族学、教育学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論	憲法・法律の役割
2	人権総論	人権とは何か
3	人権各論①	家族と人権
4	人権各論②	労働と人権
5	人権各論③	権利としての教育
6	人権各論④	刑罰と人権
7	人権各論⑤	被疑者・被告人の人権と冤罪
8	人権各論⑥	表現の自由
9	民主主義と政治制度①	民主主義と独裁政治
10	民主主義と政治制度②	参政権と選挙制度
11	民主主義と政治制度③	国民主権と象徴天皇制
12	平和①	15年戦争
13	平和②	原爆投下
14	平和③	憲法9条と自衛隊・在日米軍
15	平和④	海外派兵と改憲論
★	各回の授業内容と順番は変更することがある。	

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ -憲法のわかる50話-』岩波ジュニア新書

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識		
関 連 科 目	地域社会学、経済学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (80%)、平常点 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	環境とは	環境問題の範囲と背景
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷
5	典型七公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病
6	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成
7	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し
8	地球温暖化(I)	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策
9	地球温暖化(II)	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任
10	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー
11	廃棄物問題(I)	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物
12	食料生産と環境	食料生産の現状、フードマイレージ、食品の安全性
13	循環型社会	3R、熱回収、適正処分
14	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成23年版環境白書」環境省編 (ぎょうせい)

授 業 科 目 名	ジ ェ ン ダ ー 論	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	naitok@r2.dion.ne.jp 随時
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える		
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 1.のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 2.のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる		
関 連 科 目	【関連する教養科目】家族学、法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、毎回のミニツツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点8:平常点2を目安とする		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ジェンダー、戦後日本社会のジェンダー構造	ジェンダーとは 製造装置の回路（2つの性別分業）、一次生産物（社会資源の男性偏在）、二次生産物（女性問題）
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働
3	製造装置を読み解く(2)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働（続）
4	製造装置を読み解く(3)	第2の性別分業：社会的労働の中の性別分業（基幹労働と周辺労働）、2つの性別分業の関係
5	生産物次元の問題(1)	一次生産物：経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物：女性問題—女性に対する暴力、とくにDVを具体例として（1）
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物：女性問題—女性に対する暴力を例に DV(1)
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物：女性問題—女性に対する暴力を例に DV(2)
8	生産物次元の問題(4)	ハラスメント
9	子育てとジェンダー	子育てに係る能力に男女差はあるのか？
10	児童虐待(1)	児童虐待の定義、種類、問題
11	児童虐待(2)	児童虐待の実態
12	児童虐待(3)	児童虐待の防止・対応
13	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)
14	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ
15	まとめ	まとめ

教 科 書	使用しない（プリントによる）
参 考 書	内閣府「男女共同参画白書 平成24年度版」 川崎二三彦：児童虐待．岩波新書、2006 石井朝子：よくわかるDV被害者への理解と支援 ：対応の基本から法制度まで現場で役立つガイドライン．明石書店、2009 宮田雄吾：「生存者」と呼ばれる子どもたち 児童虐待を生き抜いて．角川書店、2010

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2. 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3. 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。		
関 連 科 目	関連し合う教養科目 －心理学 家族学 ボランティア活動論 環境学 この科目が基盤となる専門基礎科目 －地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 －精神看護学 地域看護学概論 地域看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)①
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)②
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)③
6	地域と家族(1)	近代家族の誕生、労働環境の変化と家族
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、レジュメや資料を配布する。
参 考 書	森岡清志編『地域の社会学』2008 有斐閣アルマ

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・学生の発表	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動の問題点。ボランティア活動と心の問題。		
学 習 到 達 目 標	ボランティアの基本概念と歴史を習得。 国内外におけるボランティア活動を知る。現行のボランティア活動を調査・分析して報告することにより各自のボランティアに対する考えをまとめる。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	発表の内容並びに発表態度・発表についてのレポート（70%） 授業後毎回提出の意見（20%） 授業への参加率（10%）		
準 備 学 習 の 内 容	グループ毎の発表のための準備 講義に関しては特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生の関わったボランティア活動やボランティアについて意見を話し合う エゴグラムテストにより自己分析を行う
2	ボランティア活動	講師が30年間行ってきたボランティア活動について述べる
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史（国内・国外）
4	ボランティア活動の経験談1	東日本大震災のボランティア活動経験者の話
5	ボランティア活動の経験談2	東日本大震災のボランティア活動経験者の話
6	ボランティア活動の経験談3	JICAの活動経験者の話
7	活動のプレゼンテーション 調査開始	グループに分かれる、テーマを決めて話し合う 論点を抑えて調査する指導を行う 調査結果のまとめに重点を置くよう指導
8	同上	
9	グループ発表開始	グループの発表 発表者以外はプレゼンテーションの内容態度を評価、コメントする
10 14	10-14回	プレゼンテーション継続
15	まとめ	プレゼンテーションのまとめレポート提出

教 科 書	使用しない
参 考 書	PCのボランティア活動サイト

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることになります。		
学 習 到 達 目 標	1. まず経済学の基礎理論を理解できるようにする。 2. その上で、現実の経済現象について理解できるようにする。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点（学習態度、授業中に行う確認）30%、学期末試験 70%で総合的に評価します。		
準 備 学 習 の 内 容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう一度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価についての説明
2	国民経済の仕組み	経済3主体と国民経済の仕組み
3	市場メカニズム	市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリットとデメリットは？
4	市場の失敗	市場メカニズムの限界
5	外部経済	外部経済と外部不経済とは
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗
7	インフレとデフレ	物価とは、インフレとデフレが私たちの生活に及ぼす影響
8	財政・金融政策（1）	財政政策
9	財政・金融政策（2）	金融政策
10	国内総生産	国内総生産（GDP）とは、日本の経済規模はどの位？
11	経済成長	経済成長とは、日本の成長率は？
12	貿易と国際収支	比較優位説、日本の「国際収支表」を読む
13	為替レート	為替レートとは、為替レートの変動と私たちの生活への影響
14	少子高齢化	少子高齢化は今後の私たちの生活にどのように影響していくか
15	これまでのまとめ	これまでの総合的なまとめ

教 科 書	使用しません。当日プリント資料を配布します。
参 考 書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	木曜、金曜随時
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ		
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル）を高める 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める（スチューデント・スキル）		
関 連 科 目	看護の学び入門、看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題（ワークシート、レポート）の提出状況・取り組み水準による単位認定（100%）		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い
2	アカデミック・スキル	アカデミック・スキルー“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキルー時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力
3	インターネットリテラシー	インターネット利用のルールとマナー
4	課題を立てる	前回授業を踏まえた自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を整理する
5	聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をする事か
6	読む	本や資料を読む
7	考える	直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる
8	調べる	情報を探す
9	書く	レポートの書き方
10	書く	レポートの書き方（続）
11	書く	例題レポートの作成
12	書く	例題レポートの作成（続）
13	書く	例題レポートの作成（続）
14	書く	例題レポートの完成、学生による授業アンケートのガイダンス
15	まとめ	まとめー課題はいかに追求されたか

教 科 書	使用しない（プリント）
参 考 書	

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	高等学校で学んだ「生物」の知識を基にして専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象と生体機能・遺伝の基礎的知識を深めることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	以下の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の全体像を理解することを目標とする。 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造と機能、 3. 生命活動とエネルギー 4. 細胞の増殖と分化 5. 生殖細胞の形成、受精・発生・分化 6. 生命の自己増殖 7. 遺伝のメカニズムと情報発現 8. ヒトの遺伝		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果(70%)及び時々行うミニテストの結果(30%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	高等学校で生物 I を履修または自己学習していること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生命を支える物質 -その1-	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学の研究対象や方法 ・生物の多様性 ・生命現象の特質 ・水と生命との関わり
2	生命を支える物質 -その2-	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の構成単位、アミノ酸の構造と種類 ・タンパク質の構造と機能について ・炭水化物(糖質)の種類と役割 ・脂質の種類と役割 ・遺伝物質である核酸の種類と構造 ・無機質(無機塩類)の種類と役割
3	生命の単位 -その1- ウイルス、原核細胞と真核細胞 真核細胞-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス(大きさや形) ・原核細胞と真核細胞の構造 ・真核細胞の膜の働きと細胞質基質の役割 ・細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応などについて
4	生命の単位 -その2- 真核細胞-②	<ul style="list-style-type: none"> ・粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴 ・ゴルジ体の構造と機能 ・小胞体とゴルジ体の関係 ・リソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について
5	生命の単位 -その3- 真核細胞-③	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリアの構造と機能 ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割について
6	生命活動とエネルギー-酵素、 光合成、呼吸	<ul style="list-style-type: none"> ・酵素の性質や特徴と酵素反応について ・光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成とエネルギー運搬体 ATP について ・生体のエネルギー産生とミトコンドリア(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生) ・産生されたエネルギーの行方
7	細胞の増殖・生殖細胞の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂について ・細胞周期と S 期、G2 期、M 期、G1 期の各期に起こる形態的・生化学的変化 ・G1 期の細胞の特徴について

回	講義題目	講義内容
8	細胞の分化と幹細胞 アポトーシスとネクローシス	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞 幹細胞の医療分野における応用の可能性について 多細胞体の体制維持とアポトーシス
9	ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの精子と卵子の形成 キアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義 ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化の概要
10	遺伝のメカニズム－その1－ －生命の自己増殖－染色体の構造、遺伝子の本体DNAとその複製	<ul style="list-style-type: none"> DNAから染色体へ DNA複製機構（DNAの開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースとDNAポリメラーゼ、DNAリガーゼの役割）
11	遺伝のメカニズム－その2－ 遺伝情報と形質の発現 ①	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報と形質発現の機構について 原核細胞と真核細胞における形質発現機構の相違 真核細胞における形質発現の詳細について
12	遺伝のメカニズム－その3－ 遺伝情報と形質の発現 ② 種々の要因によるDNAの変化と人体への影響	<ul style="list-style-type: none"> 原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール 原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構）について 性染色体の不活化 放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等によるDNAの損傷機構や損傷によって引き起こされる影響 生体の備わっているDNA修復機構について
13	ヒトの遺伝－その1－	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの遺伝子と染色体 メンデルの法則とヒトの遺伝 家系図の表し方 常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病
14	ヒトの遺伝－その2－	<ul style="list-style-type: none"> 伴性遺伝病 ミトコンドリア病、多因子遺伝病、 保因者・患者の出現頻度 染色体とその異常 先天異常とその発症要因
15	まとめ	

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社 高校で生物を受講した人へ はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社

授 業 科 目 名	数 学 基 礎	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。		
学 習 到 達 目 標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとして渡すプリントにある例題をそのつど復習して、次回の講義の前提となる基礎力を確実に得ておくことが準備学習である。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。

教 科 書	特になし
参 考 書	

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、看護学に必要な化学の基本を学べるように進める。		
学 習 到 達 目 標	看護学に重要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (80%)、平常点 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか
2	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか、エネルギーの出入り
3	物質の状態	固体・液体・気体、溶液、コロイド、イオン
4	有機化合物	炭素の性質、炭化水素、アルコール、有機酸
5	高分子化合物	炭水化物、脂質
6	高分子化合物	タンパク質、核酸
7	生命と化学	生体高分子、酵素
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	説明と文型練習	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	英語の文法で学生理解が不足している部分を復習する。		
学 習 到 達 目 標	語順と文型、動詞の時制、準動詞、句と節の用法などを理解する。		
関 連 科 目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語表現		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業の課題・小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとプリントの予習と復習をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Unit 1, 2, 3	be 動詞、一般動詞、未来形
2	Unit 4, 5, 6	助動詞、冠詞、代名詞
3	Unit 7, 8	前置詞、接続詞
4	Unit 9, 10	比較、進行形、
5	Unit11, 12	to 不定詞、動名詞
6	Unit13, 14	受動態、現在完了
7	Unit15, 16	関係詞、家庭法
8	Review	まとめ

教 科 書	書名：Simply Grammar 著者：斎藤喜久志、城一道子 発行所：南雲堂 定価：1800円＋税
参 考 書	英英辞書、英和辞書、和英辞書

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木 曜 日 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	看護学を学ぶに際して知っておかなければならない人体の構造を習得せしむる。		
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な構造を説明できる。		
関 連 科 目	生理学、解剖学Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 80%、課題 20%		
準 備 学 習 の 内 容	シラバスに沿って教科書を読んてくること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	解剖学とはどのような科目か。どのように授業を進めていくか。
2	総論	組織・人体の区分・形状・方向と位置・器官系
3	消化器系	口腔・咽頭・食道・胃
4	消化器系	小腸・大腸
5	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜
6	呼吸器系	上気道・下気道
7	血液	赤血球・白血球・血小板
8	循環器系	心臓の構造
9	循環器系	血管の構造・体循環と肺循環・全身の動脈
10	循環器系	全身の静脈・リンパとリンパ管
11	泌尿器系	腎臓・尿管・膀胱・尿道
12	内臓機能の調節	自律神経による調節
13	内臓機能の調節	内分泌系
14	内臓機能の調節	内分泌系
15	骨格系	頭部の骨
16	骨格系	体幹の骨
17	骨格系	上肢帯・上肢の骨
18	骨格系	下肢帯・下肢の骨
19	筋系	頭頸部の筋
20	筋系	体幹の筋
21	筋系	上肢帯・上肢の筋
22	筋系	下肢帯・下肢の筋
23	神経系	脊髄・脳
24	神経系	脳・脳神経
25	神経系	脊髄神経
26	神経系	伝導路
27	感覚器系	視覚器
28	感覚器系	聴覚器
29	感覚器系	皮膚
30	生殖器系	男性生殖器・女性生殖器

教 科 書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」坂井建雄ほか (医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木 曜 日 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	解剖学 I で学習した内容をグループワークの形で自ら説明・発表することで深める。		
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な構造をより深く説明できる。		
関 連 科 目	解剖学 I ・ 生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題 100%		
準 備 学 習 の 内 容	前回の時間内に指示された命題をグループごとに調べてまとめておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2 ～ 14	グループワークおよび発表会	器官系別に提示される命題を数名のグループで図書館などで調べ結果を発表する。 すべてのグループがすべての器官系について調べられるようにローテーションを組む。すべての学生が最低1度は演者となる。
15	総括	総まとめ

教 科 書	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」坂井建雄ほか (医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 18:00~19:00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 <u>前期</u> 小テストの平均点×0.6+ <u>前期</u> 期末試験の点数×0.4 で <u>前期</u> の最終的な評価を決定する。 <u>後期</u> 小テストの平均点×0.6+ <u>前期</u> 期末試験の点数×0.4 で <u>後期</u> の最終的な評価を決定する。 <u>前期</u> の最終的な評価と <u>後期</u> の最終的な評価の平均点を本科目の最終的な評価とする。		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テスト内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達
3		
4	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮
5		
6	血液の生理学	血液の組成とその機能
7		
8	循環の生理学	心臓血管系の基本構造と機能、調節
9		
10		
11	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
12		
13	消化と吸収	消化管の基本構造と機能、調節
14		
15		
16	神経系の機能	末梢神経系、中枢神経系、内臓機能の調節、運動機能の調節、脳の高次機能
17		
18		
19	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム
20		
21		
22		
23		
24	自律神経系	交感神経、副交感神経系の機能
25	体温とその調節	体温の意義とその調節メカニズム
26	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能
27		
28	尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿
29	および体液とその調節	体液の恒常性を維持する仕組み
30	睡眠・記憶・情動	脳の高次機能

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄 (南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店) 「はじめの一步のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を有する看護師の育成を目指す		
学 習 到 達 目 標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するかを理解する		
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学、薬理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生化学入門 ～ 生体化学成分の基礎 ～	生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。
2	生体成分の構造と機能 I	三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。
3	～ 糖質と病態 ～	
4	生体成分の構造と機能 II	
5	～ 脂質と病態 ～	三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。
6	生体成分の構造と機能 III	三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。
7	～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～	
8	生体成分の構造と機能 IV ～ ビタミンの役割と病態 ～	
9	生体成分の構造と機能 V	RNA や DNA を構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNA の翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。
10	～ 遺伝子と病態 ～	
11	酵素と代謝	酵素の種類、作用機構などを解説する。また、酵素反応速度理論に基づいて、酵素阻害のメカニズムを解説する。
12	ホメオスタシスとホルモン	ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンを介した生体内シグナル伝達機構について概説する。
13	臓器の生化学	人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、血液）における生化学的な代謝機能を概説する。
14	癌の生化学	生体を構成する細胞の周期と増殖機構を踏まえて、癌の発生メカニズムを解説する。また、現在汎用されている腫瘍マーカーについても概説する。
15	免疫の生化学	生体防御の中核を担う免疫システム（細胞性免疫・液性免疫）を概説する。生体内の免疫系細胞が分泌する各種サイトカインの役割を解説する。

教 科 書	シンプル生化学 改訂第5版 林 典夫 編集
参 考 書	レーニンジャーの新生化学「上」、「下」第4版 山梨郁男 監修（廣川） ハーパー・生化学（原著27版）R K Murrayら著（丸善）

授 業 科 目 名	疾 病 の 成 り 立 ち	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症（免疫・膠原病）、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。
14	その他	必要に応じて上記を補う。
15	その他	必要に応じて上記を補う。

教 科 書	特になし
参 考 書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。		
関 連 科 目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題
4	同 上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化
7	同 上	年齢調整死亡率の意義
8	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング
9	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法
10	同 上	結核対策、HIV 対策
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防
12	公衆衛生活動例	精神保健対策、介護保険制度
13	同 上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費
15	課題研究発表	指定課題による研究発表

教 科 書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2011/2012版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。		
関 連 科 目	① 解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	解剖学、生理学をよく学んでおく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	栄養学の目的 1	・ 食と私たち ・ 食育の必要性
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割 ・ 一日のエネルギーを求める
3	栄養素の科学 1	・ 糖質の消化
4	〃 2	・ 糖質の代謝
5	〃 3	・ タンパク質の構造、消化、代謝
6	〃 4	・ 脂質の構造と種類
7	〃 5	・ 脂質の消化と代謝
8	〃 6	・ 電解質とビタミン
9	〃 7	・ 核酸の消化吸収代謝
10	おいしさの科学 1	・ 嗅覚と食品
11	〃 2	・ 色と味
12	〃 3	・ 咀嚼とテクスチャー
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方
15	まとめ	

教 科 書	食品成分表 2012 (実教出版)
参 考 書	新体系看護学 人体の構造と機能 2 栄養生化学 (メジカルフレンド社) 看護栄養学 (医歯薬出版)

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。	オ フィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10-13:00 (場所: 611 研究室)
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。		
関 連 科 目			
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度・出欠状況 20%		
準 備 学 習 の 内 容	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史
2		障害論
3		障害者の心理
4		リハビリテーションの構成
5		医学的リハビリテーション
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方
7		地域リハビリテーション
8		社会的リハビリテーション

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一 (医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一 (金原出版)

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 I	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護学の導入として、まず日常生活の中で遭遇する健康障害を例にあげ、どのような根拠に基づき症状緩和の方法を取るか考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。		
関 連 科 目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点、講義に関する意見 (10%)、課題レポートの内容 (90%)		
準 備 学 習 の 内 容	ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読むこと 講義で該当するページを事前に読む (詳細はガイダンス時に説明する)		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護とは (1)	看護の定義と役割を学ぶ。専門職としての看護師について学ぶ。
2	看護とは (2)	看護とは何かについて、実践科学としての看護、看護教育制度、看護組織の側面から学ぶ。
3	看護とは (3)	看護とは何かについて、看護実践のための基準、看護サービスに対する評価の側面から学ぶ。
4	看護とは (4)	ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護に機能や役割を考察する。看護とは何かについて、看護の歴史と今後の課題、国際看護、災害看護の側面から学ぶ。
5	健康とは	健康の概念を学ぶ。健康観、健康増進に対する関わりについて学ぶ。
6	保健・医療・福祉システム (1)	保健・医療・福祉の概念について学ぶ。保健・医療・福祉システムにおけるサービス提供の場について学ぶ。
7	保健・医療・福祉システム (2)	保健・医療・福祉チーム、および保健・医療・福祉におけるケア提供について学ぶ。
8	保健・医療・福祉システム (3)	保健・医療・福祉システムにおける経済の動向と課題について学ぶ。

教 科 書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイチンゲール著 (日本看護協会出版会) 『ナーシング・グラフィカ®基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他 (編) (メディカ出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護学概論 I の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。 3. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護の本質を考える。 4. 看護援助の基本的役割について学習する。 		
関 連 科 目	看護学概論 I を踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (90%)、平常点、講義に関する意見 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	教科書の該当ページを読んでおく (詳細はガイダンス時に指示する)		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護への導入	看護活動の実際について
2	看護職を取り巻く法的側面	看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規を学ぶ。 医療事故における法的責任について考察する。
3	看護職を取り巻く倫理的側面	看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性、倫理的課題への対応を学ぶ。 医療現場における道徳的ジレンマを学ぶ。
4	看護の対象について	看護の対象について、統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会、健康障害をもつ対象、ライフサイクルと健康の側面から学ぶ。
5	看護実践のための理論的根拠について	看護理論とは何かについて学ぶ。看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家と主な内容について学ぶ。
6		
7	看護援助の基本的役割について	看護援助の基本役割について、コミュニケーション、教育者およびカウンセラーとしての役割、根拠に基づく援助、看護過程の展開、基本的看護技術、看護援助のマネジメントの側面から学ぶ。
8	筆記試験 まとめ	第 1 回 ~ 7 回までの復習を行う 社会における看護の役割、看護実践についてまとめを行う

教 科 書	『ナーシング・グラフィカ®基礎看護学-看護学概論』川村佐和子他 (編) (メディカ出版)
参 考 書	なし

授 業 科 目 名	看 護 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後、昼休み
科 目 の 目 的	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、地域看護学の各専門領域におけるそれぞれの特色を実践的視点でわかりやすく解説し、学生個々が4年次修了までの学習をイメージできるようにし、学習の動機づけをする。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護学の各領域の特色を表現することができる。 2. これから履修する看護学専門科目の学習に興味を持って取り組める。		
関 連 科 目	専門科目群の全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート(100%)		
準 備 学 習 の 内 容			

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	基礎看護学の学び入門	基礎看護学の特色と4年間の学習の展望
2	成人看護学の学び入門 (慢性期の看護)	成人看護学(慢性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
3	成人看護学の学び入門 (急性期の看護)	成人看護学(急性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
4	老年看護学の学び入門	老年看護学の特色と4年間の学習の展望
5	小児看護学の学び入門	小児看護学の特色と4年間の学習の展望
6	母性看護学の学び入門	母性看護学の特色と4年間の学習の展望
7	精神看護学の学び入門	精神看護学の特色と4年間の学習の展望
8	在宅看護論・地域看護学の学び入門	在宅看護論・地域看護学の特色と4年間の学習の展望

教 科 書	特になし
参 考 書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習	オフィス・アワー	—————
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者との関わりが理解できることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の特徴と役割について理解できる。 2. 病院組織内における看護部門の役割と他の医療部門との連携について理解できる。 3. 入院患者を取り巻く物理的環境・人的環境について把握できる。 4. 提供されている看護援助について、その根拠を考えながら見学することができる。 5. 患者の訴えを傾聴し、気持ちを尊重した言動をとることができる。 6. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。 		
関 連 科 目	看護学概論Ⅰ・Ⅱの統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	事前課題の実施		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。
	病院実習	病院施設内の見学実習を中心に、病棟看護師と行動をともにしながら、入院患者の生活状況を把握し、コミュニケーションをとりながら患者の入院生活に関する反応を理解する。
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについての報告、レポート作成を行う。

教 科 書	『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他（編）（メディカ出版） 基礎看護学実習Ⅰ実習要項
参 考 書	なし